

Title	企業経営における長期政権の形成要因とその効果
Sub Title	
Author	内山, 裕介(Uchiyama, Yūsuke) 齋藤, 卓爾(Saitō, Takuji)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2017
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2017年度経営学 第3279号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002017-3279

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（ 2017 年度）

論文題名

企業経営における長期政権の形成要因とその効果

主 査	齋藤卓爾 准教授
副 査	河野宏和 教授
副 査	高橋大志 教授
副 査	

氏 名	内山 裕介
-----	-------

論文要旨

所属ゼミ	齋藤卓爾研究会	氏名	内山 裕介
(論文題名)			
企業経営における長期政権の形成要因とその効果			
(内容の要旨)			
<p><問題意識></p> <p>経営者の任期は、戦後以降一貫して短期化している。これには、中期経営計画をはじめとする短期目標の達成に経営者の意識が集中してしまっている点や、昨今経営に対する発言力を強めつつある株主による短期利益追求の圧力に押され、短期利益の創出に走る経営者が増加傾向にある点などが理由として考えられる。このような状況にあっては、会社の将来の発展を意図した長期的視点に立った経営の実現が難しい。しかしこの短期化傾向の中で、企業のトップの地位に長期在任して経営を継続している人物がある一定数存在する。長期政権の経営者には、外部環境変化や株主圧力に屈せず経営者として持続できる要因が内在していると考えられる。</p> <p>また企業のトップに長期在任する人物は、独裁者の風格を持ちワンマン経営によって居座りを続けているネガティブな印象がある一方、圧倒的なパワーで企業を成長に導く実力者として評価されているイメージもある。こうした二面性を持つ長期政権の経営者は、実際にはどのようなパフォーマンスを発揮しているのかを確認する必要があると考える。</p>			
<p><研究の目的></p> <p>経営者が長期政権を形成する要因を明らかにする。先行研究では業績が主な要因であることが実証されているが、業績以外にも任期を長期化している要因は存在すると推測する。特に長期政権の形成のための鍵となる、経営者の権力基盤の構築手法というポイントに着目する。</p> <p>また、一般的な任期の経営者に比べて長期政権の経営者は高いパフォーマンスを発揮できているのかを検証し、企業における長期政権の効果について評価を行う。</p>			
<p><分析></p> <p>社長の在任期間を長期化する要因として考えられる仮説を導出し、それについて検証を行った。</p> <p>仮説の枠組みとして、1. 先行研究で示されている要因の検証、2. 社長を取り巻く外部環境から影響を受けている受動的な要因の検証、3. 社長が政治的画策に動くことによる意図的な要因の検証の3種類の仮説を導出した。それぞれの仮説ごとの有意差の有無について確認した後、各仮説で用いた数値を説明変数として重回帰分析を実施した。</p> <p>また、長期政権の社長と一般的な任期の社長のパフォーマンスについて検証するため、株価上昇率の比較を行った。比較にあたり、ベースとして日経225平均株価の成長率を使用し、長期政権の社長の株価上昇率が市場の平均である日経225平均株価上昇率に対してどのような動きをとったかを確認し、長期政権の社長のパフォーマンスを評価した。</p>			
<p><結論></p> <p>社長の長期政権の形成要因として、先行研究で示されている「業績」や「就任年齢の若さ」という要因以外に「前任社長の在任年数の長さ」「取締役(平均)との年齢差の小ささ」という新たな要因が存在することを実証することができた。</p> <p>また、市場の平均株価の推移に対する長期の社長の株価上昇率という指標で比較した結果、長期政権の社長は一般的な任期の社長に比べて高いパフォーマンスを発揮していることが検証された。</p> <p>業績以外の長期政権形成の要因を見出したという点については、新しい発見になり得ると考える。</p> <p>株価上昇率という軸においては長期政権の社長の存在意義を示すことができたが、社長が長期在任して経営することが最良だという結論が、全てにおいて当てはまる訳ではない。長期政権のメリットを定義し、それがどの局面で効果が出るか分析することで、長期的な経営の意義を明確にすることができると推測するが、この点については今後の検討課題としたい。</p>			